

「Akitaふるさと活力人養成セミナー(第2期)」

国際教養大学 地域環境研究センター
秋田県農林水産部 農山村振興課

1. セミナー実施の背景

国や各地方自治体による様々な対策により、中山間地域は道路、通信、福利厚生施設、上下水道などのハード面はかなり整備されてきていますが、依然として過疎・高齢化には歯止めの兆しが見えない現状にあります。このような状況において、私たちが問題としなければならないのは、人口の減少それ自体だけではなく、地域共同体や長年にわたり地域に蓄積された環境、文化、伝統、生活などの資源が消滅の危機にさらされ、ふるさとに対する愛着や誇りが薄れてしまうことであると考えます。

一方で、各地で地域活性化の動きが活発となっているのも事実です。特産品開発、高付加価値作物の植え付け、イベント開催、産直システム構築、そして農山村の特質を活用したグリーン・ツーリズムなどが全国各地で展開されています。このような活性化を目的とした取り組み等の事例研究から明らかになりつつあるのは、地域活性を熱望し、住民に地域おこしへの参加を促し、アイデアの創出や住民の意見集約、地域内外の人的ネットワークづくりなどを通じて、地域に散らばる潜在的資源を客観的に認識し、これらを結びつけて生かすことのできる、いわゆる「地域コーディネーター」的人物の存在が、成否の鍵を握るほど重要な役割を果たすということです。

ここ秋田県における農山村の特質で際立つものは、豊かな自然資源と伝統・生活文化です。杉やブナを主とする森林資源、農山村の落ち着いた雰囲気、豊富な温泉などは極めて価値の高い自然資源です。またナマハゲ・マタギ・かまくら・神楽・番楽・民話・民謡などの伝統文化や、山菜取り・漬物作り・農村生活道具などの生活文化などは、国内はもとより国際的にも認められるべき潜在的価値があり、これらを組み合わせた農山村活性化の取り組みの展開に向けた無限の可能性を示唆しています。

しかし、残念ながら秋田県ではこれら豊かな自然、伝統、生活資源を地域住民と共に効果的につなげていくことのできる、前述のような地域コーディネーターが不足しています。秋田県の農山村の将来を長期的視点から考慮するにあたり、このような人材を育成することは極めて重要です。

2. セミナーの実施形態と概要

以上の状況を踏まえて、本セミナーでは地域コーディネーターの養成を目指します。そしてこのコーディネーターには、期待と思いを込めて「Akitaふるさと活力人(かつりょくびと)」と名付けました。

セミナーでは、国際教養大学をはじめとする県内大学の教員や、そのネットワークを活用して研究者や実践者を講師として迎え、コーディネーターとして必要な基礎的な知識をはじめ、国内外における農山村地域の活性化事例などを学びます。また、あわせてコミュニケーション能力や企画立案・実施などを、講義だけでなくワークショップ、グループ討論等を織り交ぜながら実践的に展開します。

また、カリキュラム関連を国際教養大学の地域環境研究センターが担当し、事務局を県庁農林水産部農山村振興課が担当します。この2者が連携しながら、上記センター内に様々な実績やノウハウを蓄積し、継続的に本県の農山村の活性化推進を支援していきます。

なお、平成17～18年度に実施したAkitaふるさと活力人養成セミナー(第1期)については22名が2カ年度の受講を修了し活力人第1期生となっており、地域内等でのつながりを生かした活動とあわせて、広域的なネットワークでのつながりを保ちながら情報共有や活動協力をしています。

開講予定科目とその概略

1. 地域力概論

熊谷嘉隆（国際教養大学）

本講義では地域に内在する多様な資源を分類する手法を学習する。またそれらを未活用資源、ハード資源、ソフト資源などといった項目に分類しつつ、その相互関連性を理解する。加えて上記資源を地域活性に利活用するに当たってのポイントや阻害要因を学習する。最後に活力人の役割を上記地域資源の枠組みの中で学習する。

2. 地域マーケティング

前中ひろみ（国際教養大学）

地域力概論でリストアップした地域資源を活用して地域づくり、地域のブランド化、特産品の開発と販売促進、あるいは地域ビジネスの創出などを推進する上で役立つマーケティングの基本的概念や理論を理解し、既存または新規の地域事業戦略に応用する手法を学習する。

3. 地産地消概論

谷口吉光（秋田県立大学）

本講義では地域内資源を地域で生産、販売、消費することによる現代的意義を学習する。例えばフードマイルージという概念に代表されるように現代人の食卓に上る食材は世界中から流入してくるが、その輸送に伴うエネルギー消費は莫大である。地域のもを地域で消費することはエネルギー効率を高め、なおかつ地域循環型社会・経済システムの構築にもつながる。本講義ではこれらの仕組みを事例を通して学習する。

4. 計画策定

熊谷嘉隆（国際教養大学）

イベントや各種計画を策定する上でのプロセスをシュミレーション作業を通して学習する。また計画を立案する際の大目標、戦略目標、短期目標の立て方、それらの位置づけや関連性を学習する。また計画を練る際のグループ編成のコツ、効果的議事進行手法なども学習する。

5. コミュニケーション論

前中ひろみ（国際教養大学）

人間の社会活動においてきわめて重要な役割を果たすコミュニケーションについて、基礎的概念と理論を学び、自らのコミュニケーションを点検し、地域活動における様々な場面で効果的なコミュニケーションを行っていくための知識や技能について理解し、よりよい人間関係を築き、効果的に事業を展開するためのコミュニケーション能力を養う。

6. 地域活性再考

熊谷嘉隆（国際教養大学）

本講義では地域活性とはそもそも何か、何を持って、どのような状態を持って地域活性とするのか、地域活性の判断基準は何かといったことを議論を通して学習する。また過疎や高齢化といった日本の地方が抱える問題も議論をしつつ考える。

7. 地域学概論

地域活動実践者・研究者などの外部講師（未定）

本講義では地域に継承されつつも継承の危機にある多様な知恵、知識、技、または地域の歴史、言い伝えなどを包括的に研究する地域学について学習をする。また地域学構築過程でしばしば観察される地域住民の地域再発見によって喚起される誇りや愛着などを事例を通して学びつつ県内集落における地域学推進の可能性を考える。

8. 効果的な広報

勝又美智雄（国際教養大学）

新しいアイデアを普及させたりや地域ブランド商品などを売り込む上での留意点、キャッチコピーの作り方、効果的なメディアの活用方法などを学習する。講義では講師が仮想プロジェクトを提示し、受講生がそれにまつわる広報戦略を立案するといったシミュレーションを通しPRのノウハウを学習する。

9. パワーポイントとホームページ作成

菅原香織（秋田公立美術工芸短期大学）

プレゼンテーションに欠かせないパワーポイントの効果的な作成と活用方法を学ぶ。また情報発信ツールとしての人をひきつけることができるサイトとして、信頼性の高い情報内容、優れたデザインとレイアウトを持つホームページの作成や更新の仕方を学ぶ。

このほか、より実践的な現地研修・現地企画・実践地研修などを実施する予定です。

以上のカリキュラムは予定であり、変更となる場合があります。